

【証券コード】 7719



株式会社東京衡機

個人投資家さま向けIRセミナー

代表取締役社長 小塚英一郎

2026年2月10日（火）

目次

01		会社概要	06		中期経営計画
02		試験機事業	07		トピックス
03		エンジニアリング事業	08		質疑応答
04		デジタル事業			
05		業績ハイライト			

01

会社概要

代表

代表取締役社長 小塚 英一郎

学歴

広島市立基町高等学校卒業。

1987年3月:中央大学法学部を卒業。

職歴

1987年4月:富士銀行(現・みずほ銀行)に入行

2001年12月:富士銀キャピタル(現・みずほキャピタル)米国投資担当部長

2003年7月:EKインベストメンツ(現・アポロテクノロジーズ)代表取締役に就任

2013年12月～2014年4月:香港でIPOプロジェクトに携わる

2016年4月:ストラクチャードファイナンスを担当

2021年4月:クラウド・インベストメンツ・ジャパン(現・X-Fund)代表取締役兼法規部長に就任

2022年2月:東京衡機の社外取締役に就任

2022年4月: DreamBridge 代表取締役

2023年3月:東京衡機不正発覚後、再建のため東京衡機代表取締役社長に就任

2023年4月:東京衡機エンジニアリング 代表取締役社長

2024年5月:東京衡機試験機 代表取締役会長兼社長



会社概要

会社名	株式会社東京衡機
本店所在地	〒252-0151 神奈川県相模原市緑区三井315番地
本社	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町22番14号 N. E. SビルN棟5階
資本金	5億円
創立	1923年(大正12年)3月20日
従業員数	22名(連結196名) ※2025年12月31日現在(ASTOM R&D社含む)



渋谷本社



相模原工場



豊橋工場

会社概要



会社名	株式会社東京衡機試験機
本店所在地	〒252-0151 神奈川県相模原市緑区三井315
本社	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町22番14号 N. E. SビルN棟5階
資本金	5,000万円
事業内容	各種材料試験機、構造物試験機、性能試験機、計測機器等の製造販売、受託試験
従業員数	97名



会社名	株式会社東京衡機エンジニアリング
本店	〒252-0151
相模原事業所	神奈川県相模原市緑区三井315
東京事務所	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町22番14号 N. E. SビルN棟5階
資本金	5,000万円
事業内容	ゆるみ止めナット・スプリング 特殊バネ、ボルトその他の締結部材の製造・販売
従業員数	9名



会社名	株式会社先端力学シミュレーション研究所 (略称：ASTOM R&D社)
本社	〒112-0002 東京都文京区小石川5-5-5
支店	浜松技術開発センター 静岡県浜松市東区小池町1379-1 名古屋営業所 愛知県豊田市小坂本町1-5-5-241
資本金	9,984万円
設立	1999年4月2日
従業員数	68名 ※2025年12月31日時点

— 東京衡機グループは何をやっている会社？

安全と安心を裏方で支えている仕事をしています。

02

試験機事業

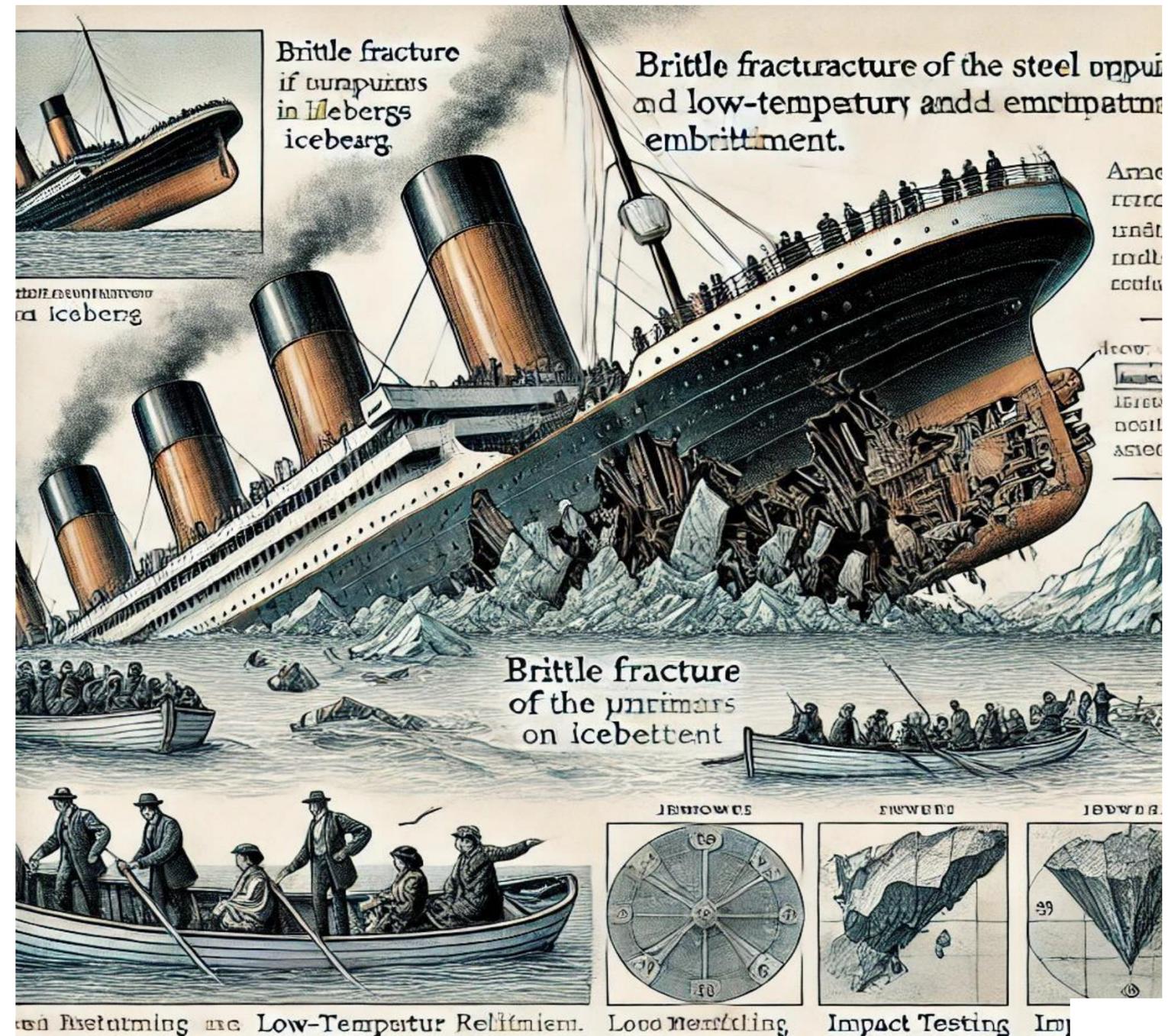
安全と安心を支える技術

試験機事業 ～株式会社東京衡機試験機～

試験機業界は、私たちの社会の安全性を確保するために欠かせない存在です。

試験機の歴史は、事故の歴史と密接に結びついています。

鉄道、船舶、航空機などの大規模な事故を教訓に、より安全な設計・製造のための試験技術が進化してきました。



試験機業界の主な分類

材料試験

強度試験

耐性試験

破壊試験

動力系試験

エンジン試験

電動モーター試験

耐久試験

環境試験

温度試験

湿度・塩水噴射試験

振動試験

当社の主力分野は、材料試験、動力系試験です。

当社の主な試験機

油圧万能試験機



エンジン動力計



主要販売先
(あいうえお順)

- ◆ 川崎重工グループ
- ◆ クボタグループ
- ◆ コマツグループ
- ◆ JFEグループ
- ◆ 日本製鉄グループ
- ◆ 三菱重工グループ
- ◆ 三菱ふそうトラック・バス
- ◆ ヤンマーグループ

- ◆ 自動車会社各社
- ◆ 建設会社各社
- ◆ 公的機関



東京衡機試験機



投資価値・将来性

試験機業界は、技術革新とともに成長を続けています。

- **安全ニーズは普遍的**：
インフラや乗り物がある限り、安全性を確認するための試験は欠かせません。
安定需要が期待できる分野です。
- **エネルギー需要の増大**：
原子力発電、風力・太陽光発電等、発電設備の試験機ニーズが増加しています
- **拡大する研究開発投資**：
環境対応や新素材の開発など、各業界は試作・検証を強化しており、その潮流の中で、試験機のニーズも高まっています。

近年では、エネルギー需要の増大や地球温暖化問題の顕在化を背景に、
発電設備・インフラ・輸送機器等における安全性・耐久性評価の重要性が高まっており、
試験需要は中長期的に拡大傾向にあります。

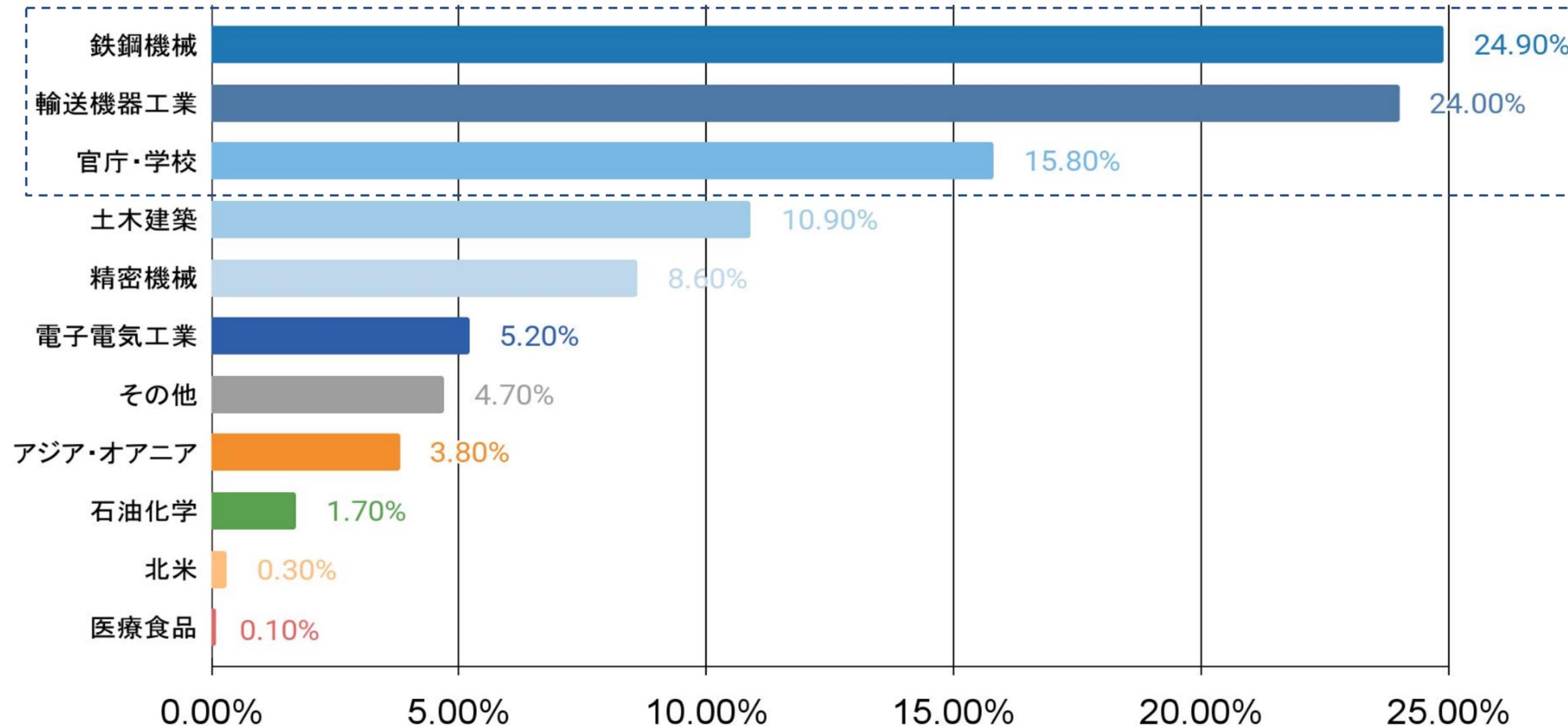
試験機事業の強み（顧客構造）

- 顧客の8割超が、重工・自動車・鉄鋼・官庁研究機関
- 基礎材料・構造材料評価が中心
- 法規制、研究開発、設備更新需要に支えられた景気変動の影響を受けにくい

事業構造

産業分野別 納入実績 (2020年～2024年)

構成比(%)



重工・自動車・鉄鋼・官庁研究分野が60%超を占め、当社は設備更新・研究需要に支えられた安定的な事業構造を有しています。

03

エンジニアリング事業

安全と安心を支える技術

エンジニアリング事業 ～株式会社東京衡機エンジニアリング～

安全性を求めて 振動や衝撃に負けない「ゆるまないナット」

輸送機器や鉄道、高速道路、橋などに使われるボルトやナットは、振動や衝撃で少しずつ緩み、思わぬ事故につながる可能性があります。そうした問題を防ぐため、通常は「ナットを2つ重ねる」「ゆるみ止め剤を使う」などの対策が行われています。

当社の製品の特徴

当社の「ゆるまないナット」は、特殊なスプリング構造によって1つのナットだけで緩み止めを可能にした製品です。



株式会社東京衡機エンジニアリング



製品紹介

“「スマートハイパーロードナット」と「T-スプリング」”

1. ゆるみ止め性能

- ・強い振動外力に対し非常に有効
- ・締付けトルク0でもゆるみ止め性能を発揮



2. 施工性

- ・繰返し使用可能（ゆるみ止め性能は低下しない）
- ・誰でも使用可能（特殊工具不要）

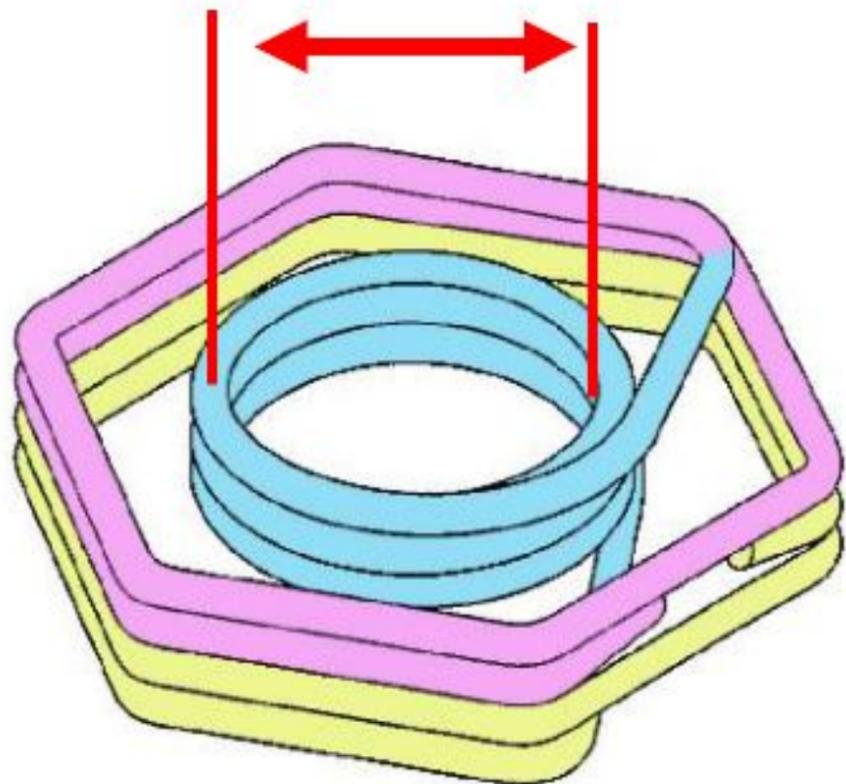
3. 品質・実績

- ・ロット管理（振動試験もロット毎に実施 国内唯一）
- ・使用実績多数（評価は施工性による支持が多い）
- ・ラインナップ充実

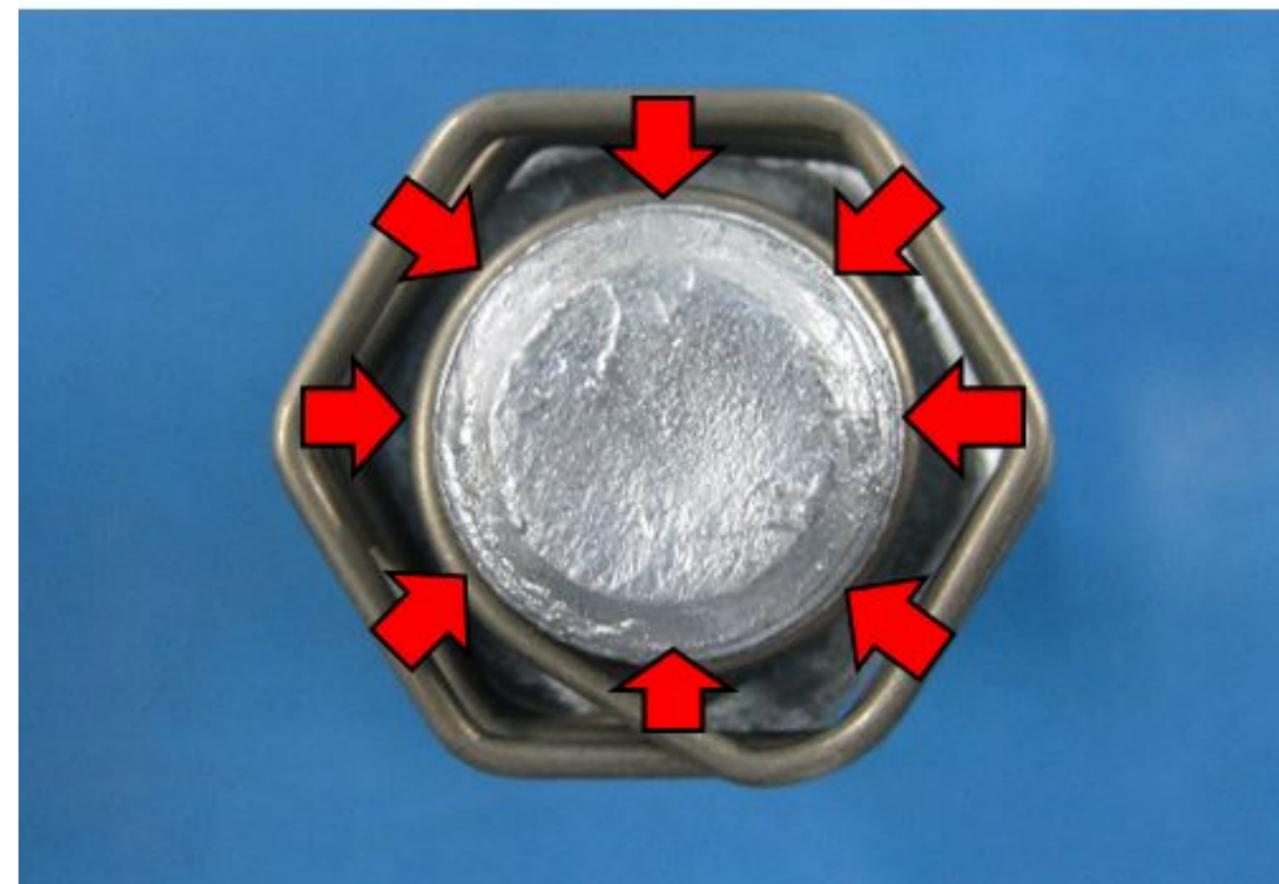


ゆるみ止め構造 T-スプリング

スプリング内径がボルトより小さい



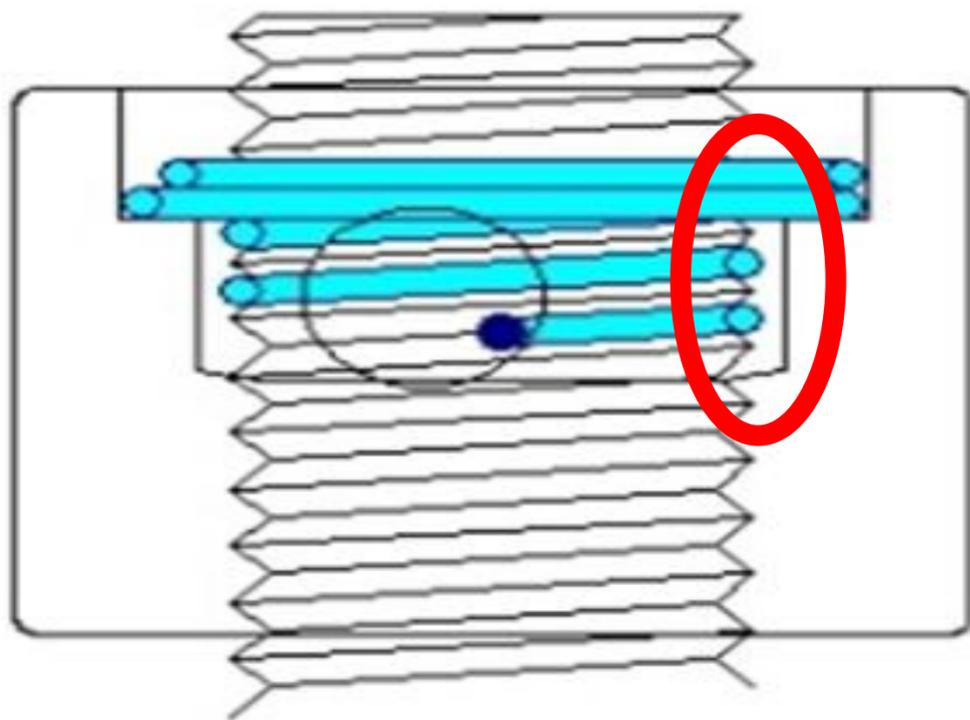
スプリングが全週に渡り緊縮



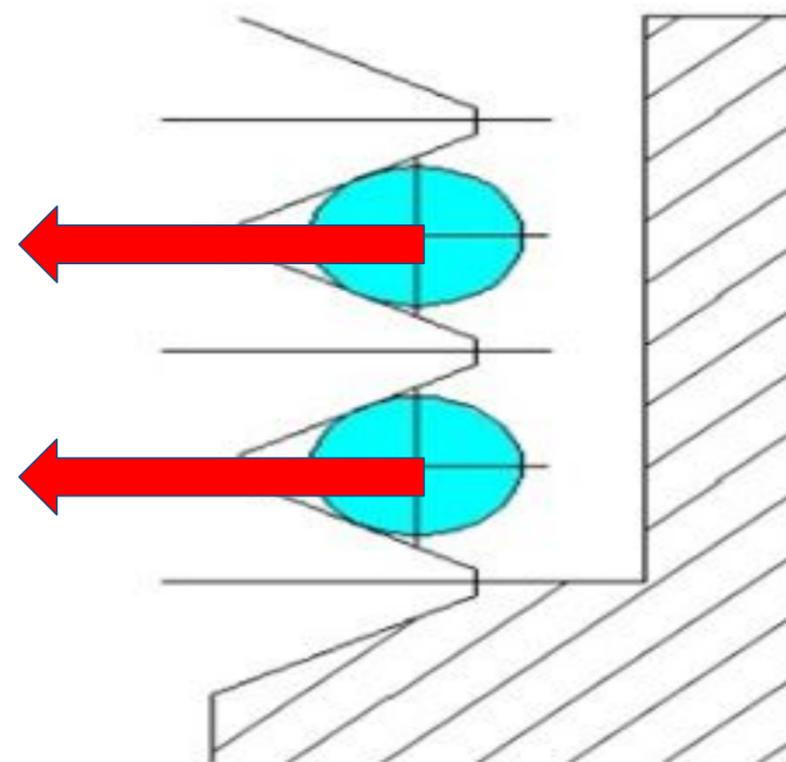
- ・スプリングがボルト全周にわたり拡径し強固に緊縮、ナットがゆるもうとしても緩み回転を防止
- ・作業様はナットに密着するまで回して取付けるだけ！

ゆるみ止め構造 スマートハイパーロードナット

スプリング内径がボルトより小さい



スプリングが全週に渡り緊縮

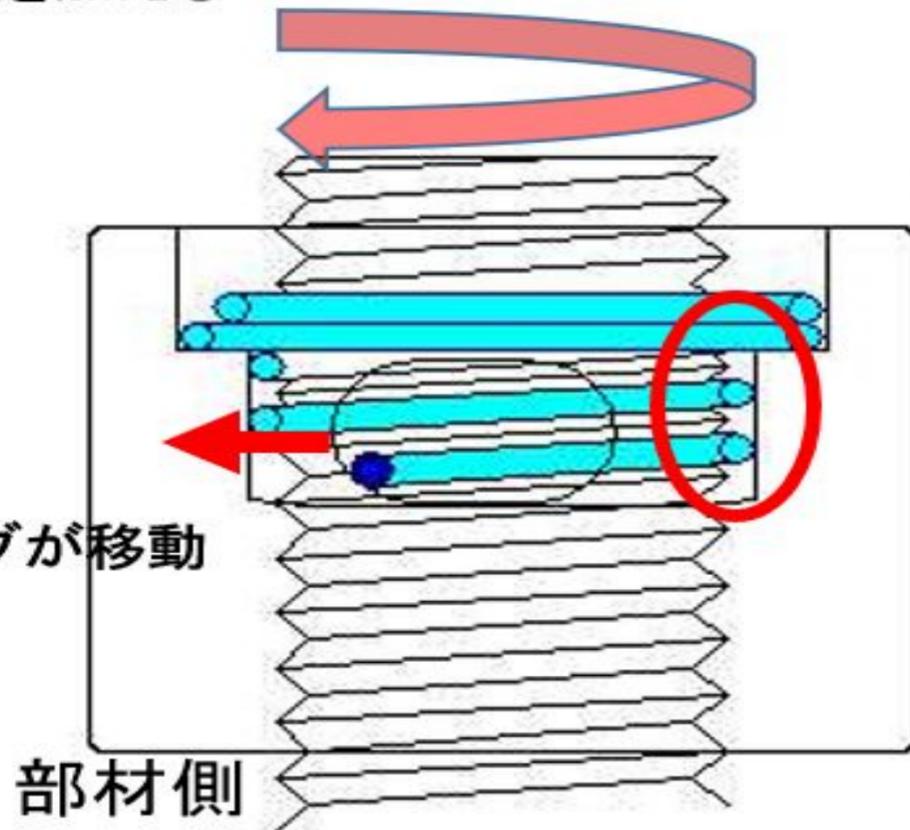


- ・スプリングがボルト全周にわたり拡径し強固に緊縮、ナットがゆるもうとしても緩み回転を防止
- ・作業様は通常ナットと同様、締付けるだけ！

ゆるみ止め構造 スマートハイパーロードナット

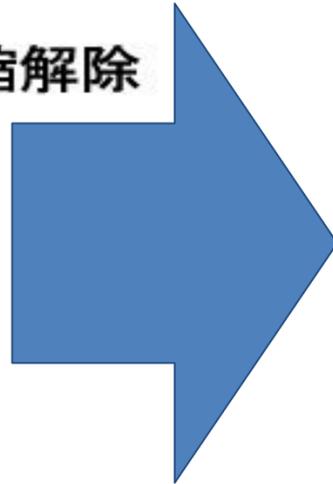
一定以上のゆるみ回転を加えるとスプリング突起部が横孔の左側面にあたり緊縮を解除

①緩み回転を加える

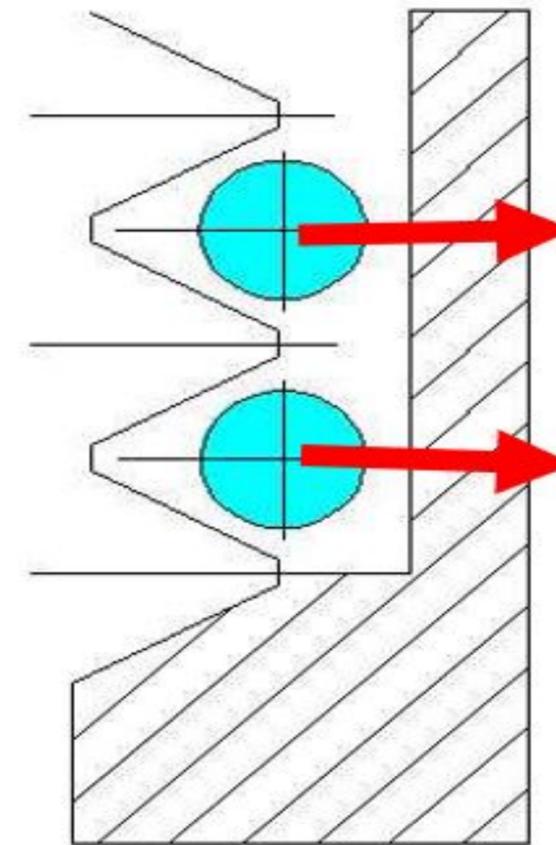


②スプリングが移動

③緊縮解除



スプリングが解除



- 取外しは特殊な工具、技能は不要！
- 作業様は通常ナットと同様ゆるめるだけ！

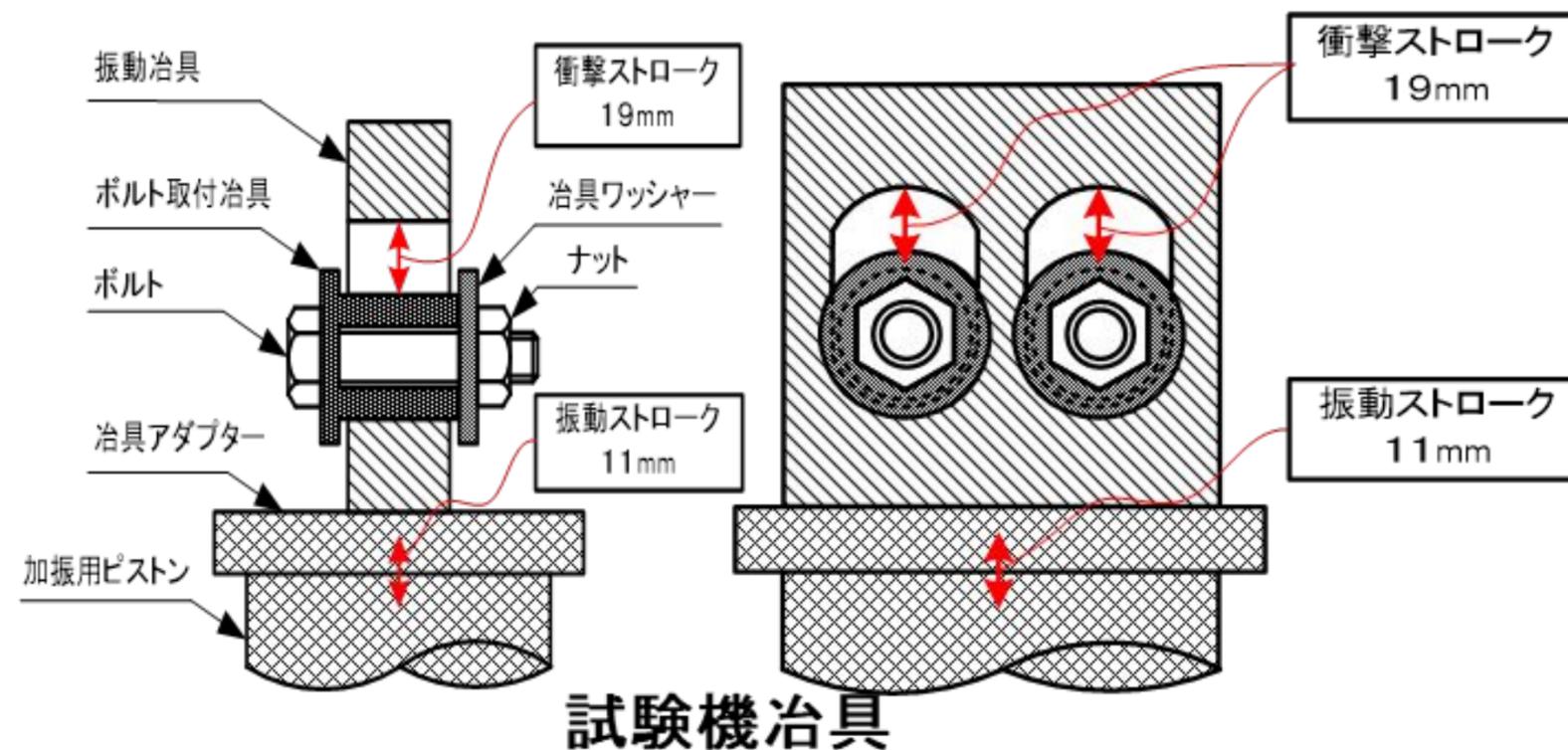
ゆるみ止め性能

NAS3350に準拠した振動試験規格にて製品性能を保証

(ロット毎に振動試験を実施し保証しているのは弊社のみ)



振動試験外観



試験機治具

試験項目	条件
加振方向	ボルト軸に対し直角方向
振動数	1,750回/分 (周波数29.2Hz)
振動加速度	19.5G (実測)
振動ストローク	11mm
衝撃ストローク	19mm
振動回数	上限30,000回

確認項目	合格条件
脱落有無	上限30,000回で脱落なきこと
緩み有無	部材と試験体が相対的に360°以上緩み回転していないこと

投資価値・将来性

- **幅広い分野で需要拡大が期待：**
現在の主な用途は、電力インフラや大型建築物、木造戸建て住宅、高速道路、鉄道など多岐にわたり、今後の需要拡大が期待できます。
- **継続的な需要：**
安全性への意識が高まるほど、ボルトとナットを使うさまざまな現場で活用される余地が広がり、継続的な需要が見込まれます。
- **差別化された技術：**
「逆方向に回すほど締まる」独自の発想とスプリング構造による差別化で、安心、安全な社会インフラを支えます。

04

デジタル事業

安全と安心を支える技術

デジタル事業 ～株式会社先端力学シミュレーション研究所（ASTOM）～

2026年2月期より東京衡機連結子会社（議決権比率67.69%） 理研発ベンチャー

東京衡機の「試験機」とASTOMの「CAEソフトウェア」の融合 = デジタルツイン解析技術を駆使し、ものづくりに必要不可欠な開発・設計・評価におけるソリューションを提供します。

<デジタルツイン>

現実空間上で収集した情報に基づき、仮想空間上で事象（環境、場所、生物、資産、システム、デバイス等）を再現するデジタル複製技術のことです。

<デジタルツイン解析技術>

再現された仮想事象上で現実空間から得られた情報に基づき様々なシミュレーションを行う事で、より精度の高い多面的な分析が可能となり、現実にも即した効果的な課題解決が可能となります。

<高精度なシミュレーション技術>

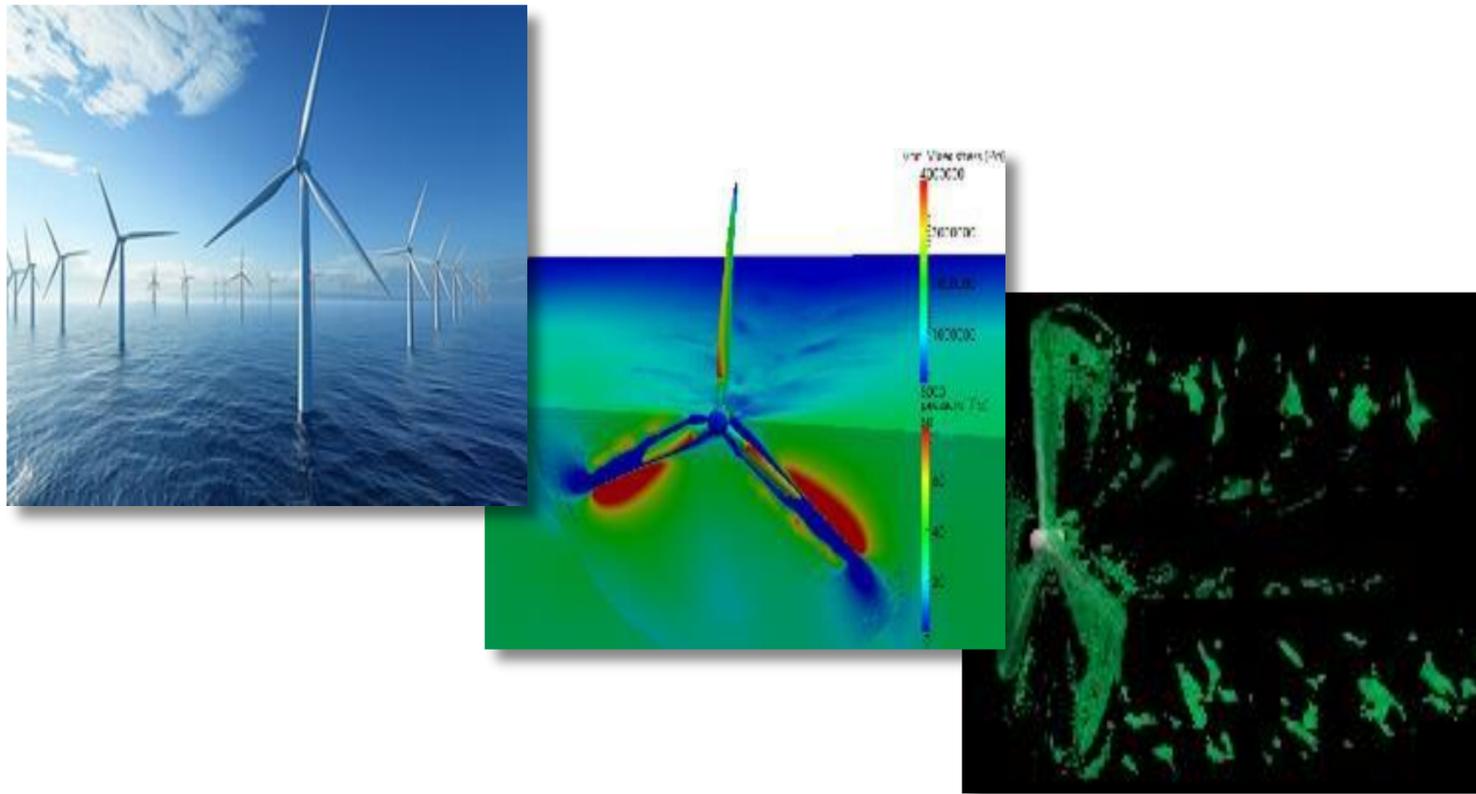
試験機で収集した情報データに基づき、ASTOMがCAEソフトウェアによる高精度なシミュレーションをより実現します。

*CAE = Computer Aided Engineering（コンピュータによる工学支援）

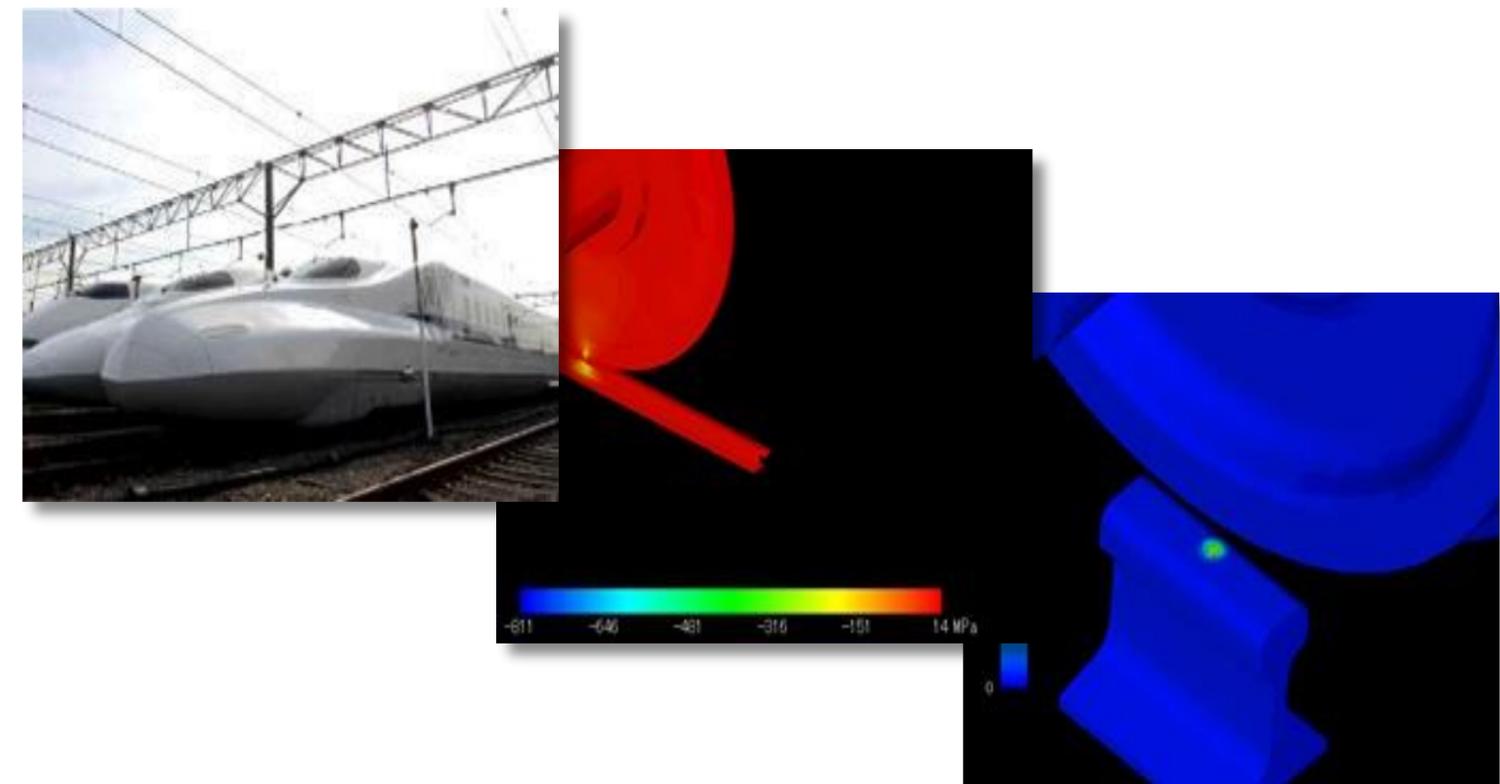
CAEの役割

- 構造解析、流体解析、マルチフィジックス解析（熱/電磁場/化学/音響/光学）
- 半導体信頼性解析、原子力安全解析等

<風力発電用風車の流体-構造連成解析>



<新幹線の車輪の転がり接触解析>



ハードとソフトの融合



投資価値・将来性

CAEは、モノ作りのDX化とともに、需要が増加します

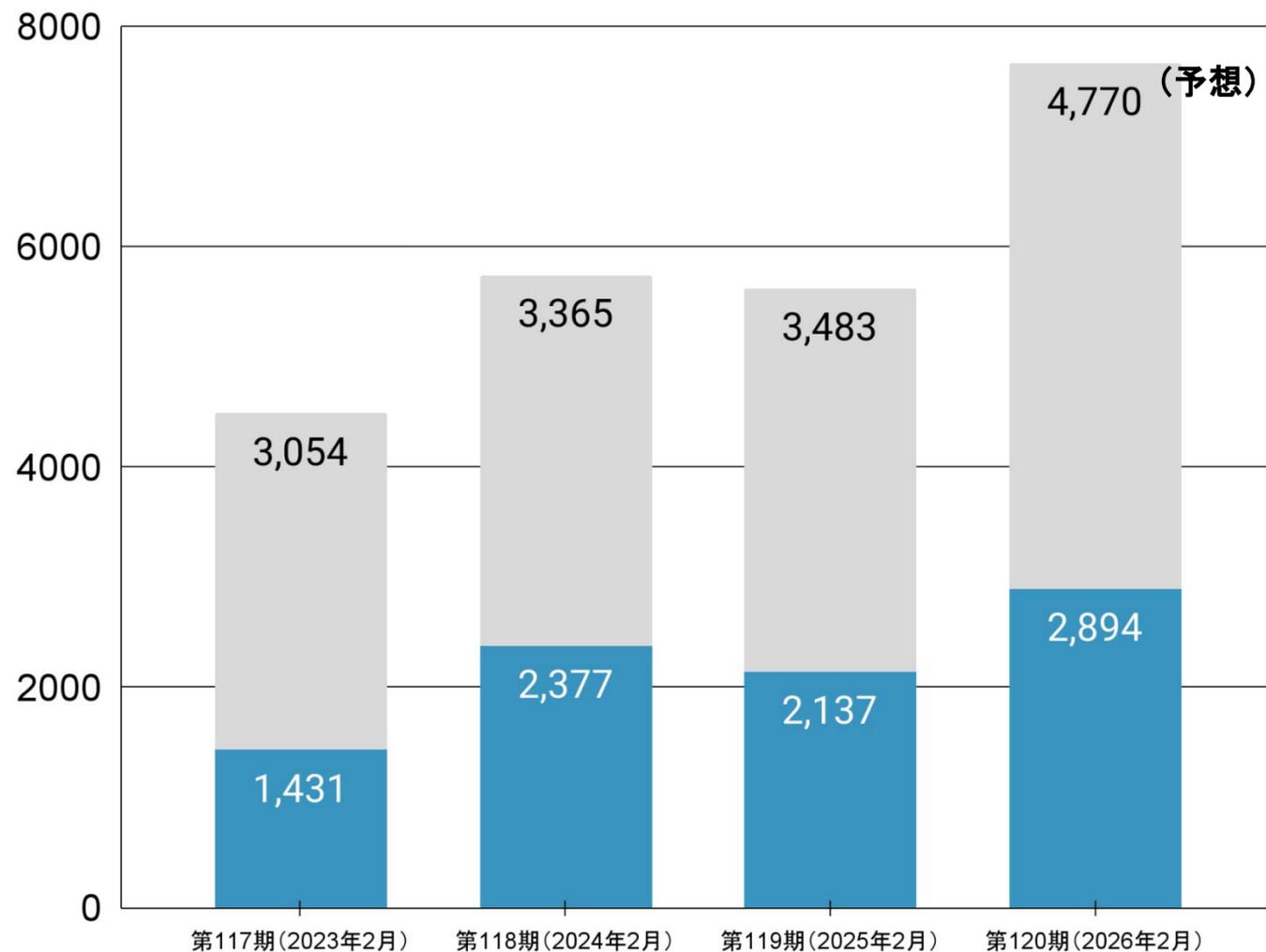
- **開発効率とコスト削減**：
実際に試作品を多数作り、破壊試験を繰り返す前にコンピュータ上でシミュレーションを行えます。
⇒ 製品開発期間を大幅に短縮し、試作品の製造コストや材料の浪費を削減できます。
- **高精度なデジタル評価のニーズ拡大**：
CAEは複雑な物理現象を高精度で再現・予測できるため、エネルギーや自動車などの安全性が重視される分野だけでなく、
医療・航空宇宙・材料研究など幅広い分野で活用される可能性が広がっています。
- **データ連携・AI技術との融合による付加価値創出**：
試験機から得られる実験データとCAEのシミュレーションデータを一括で管理・分析することで、
AIを活用した高度な予測モデルの構築や、最適設計の自動化が可能になります。

業績ハイライト

過去3年の実績および2026年2月期第3四半期決算

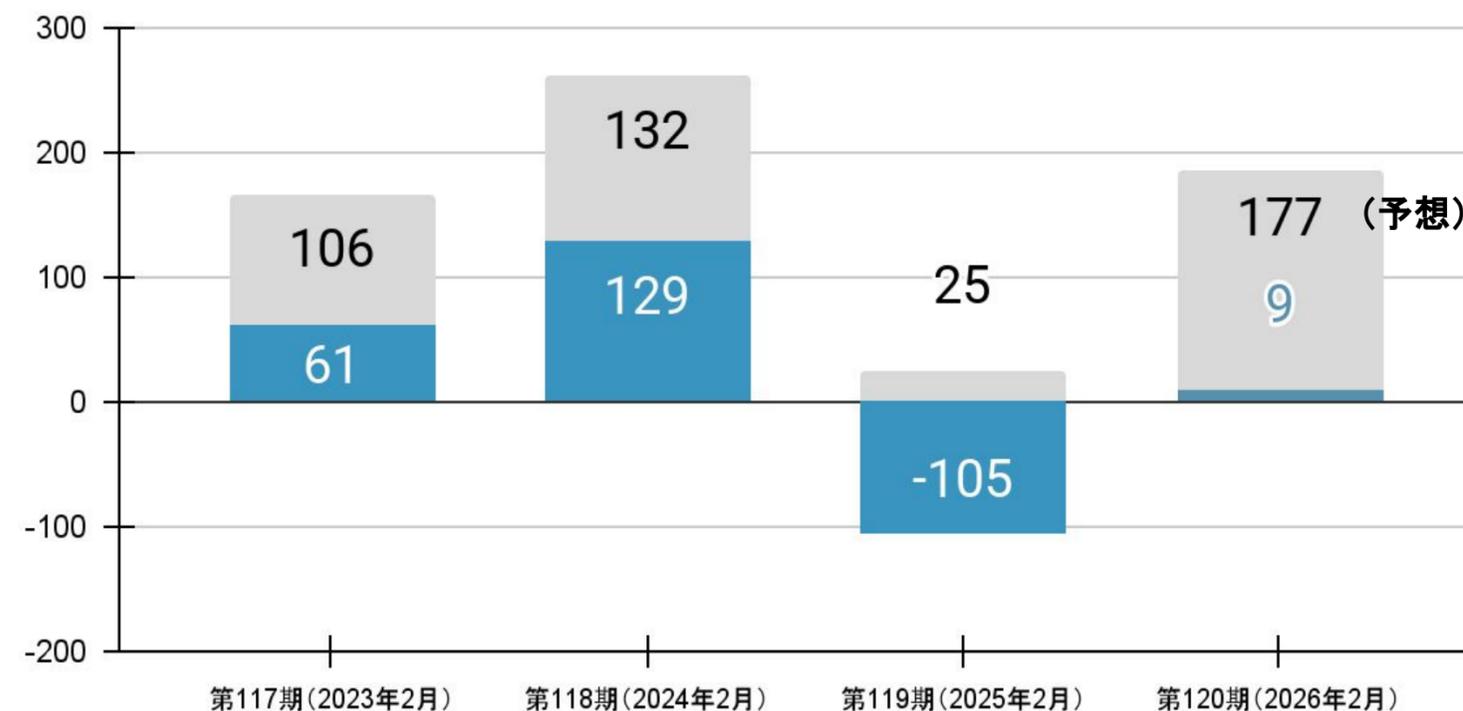
売上高 (百万円)

■ 通期 ■ 第3四半期



営業利益 (百万円)

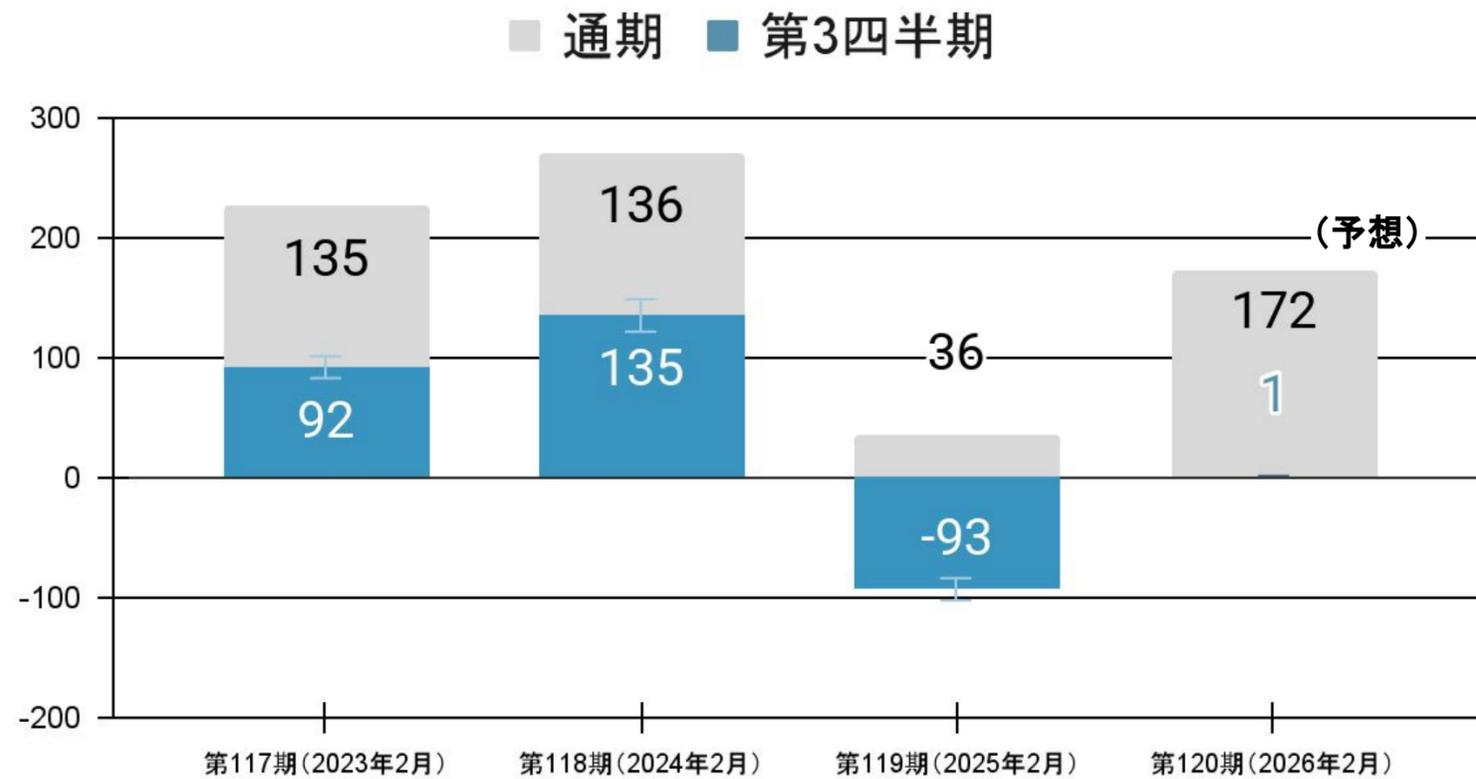
■ 通期 ■ 第3四半期



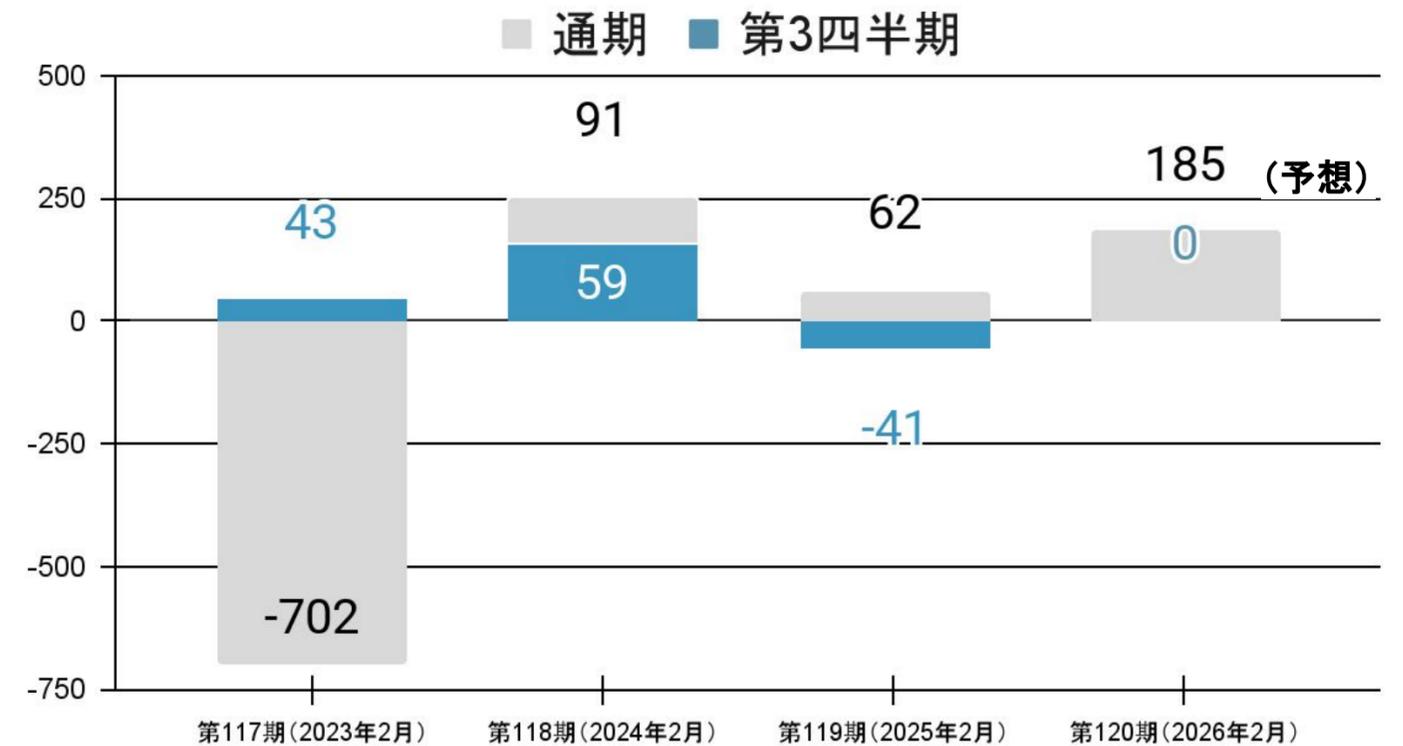
2026年2月期(通期)の業績については、計画通りの予定です。

過去3年の実績および2026年2月期第3四半期決算

経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する (当期) 純利益 (百万円)



2026年2月期(通期)の業績については、計画通りの予定です。

2026年2月期第3四半期決算ポイント

✓ 試験機事業

景気変動に強い事業基盤：材料評価や規制対応を主軸とするため景気の影響を受けにくく、強みである技術力とカスタマイズ対応を武器に受注を順調に推移。

戦略的パートナーシップの成果：ZwickRoell社との販路拡大やASTOM R&D社のCAE解析技術を活かした開発段階からの包括提案が奏功し、受注残高の積み上げに貢献。

増収増益と今後の成長性：豊富な受注残の売上計上により前年同期を上回る業績を達成しており、今後はさらなる差別化と高付加価値化による収益向上を見込む。

✓ エンジニアリング事業

インフラ需要による黒字確保：主力の「ゆるみ止めナット・スプリング」が社会インフラ向けに堅調に推移したことで、セグメントでは営業利益の黒字を達成。

設備投資抑制と競合激化による停滞：電力ばねの設備投資計画の変更や、ナット製品における安価な競合品の台頭により、一部製品では成長が伸び悩む結果。

✓ デジタル事業

季節性と投資による現状の損失：売上が1～3月に集中する季節要因と、開発・採用への積極的な先行投資により現在は損失先行、これらは中長期的な成長を見据えた想定内の推移。

次期に向けたV字回復の見通し：2025年12月期は営業損失を見込む一方、2026年12月期には売上高819百万円、営業利益67百万円と、大幅な増収・黒字化を計画。

グループ横断のシナジー創出：実測とCAEを融合した「課題解決」を核に、他事業との連携を通じてグループ全体の収益成長を牽引する中核事業への発展を目指す。

セグメント別業績ハイライト

試験機事業（東京衡機試験機）

指標	2024年2月期	2025年2月期	2026年2月期 第3四半期累計
売上高	2,906百万円	3,075百万円	2,372百万円
販管費	554百万円	557百万円	433百万円
営業利益 (セグメント利益)	453百万円	624百万円	429百万円

エンジニアリング事業（東京衡機エンジニアリング）

指標	2024年2月期	2025年2月期	2026年2月期 第3四半期累計
売上高	458百万円	386百万円	292百万円
販管費	113百万円	124百万円	82百万円
営業利益 (セグメント利益)	88百万円	△132百万円	14百万円

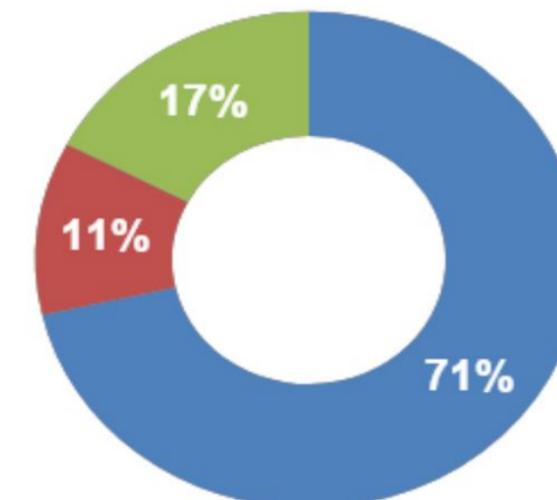
デジタル事業（先端力学シミュレーション研究所）

指標	2023年12月期	2024年度12月期	2026年2月期 第3四半期累計
売上高	703百万円	737百万円	231百万円
販管費	188百万円	255百万円	151百万円
営業利益 (セグメント利益)	113百万円	△14百万円	△83百万円

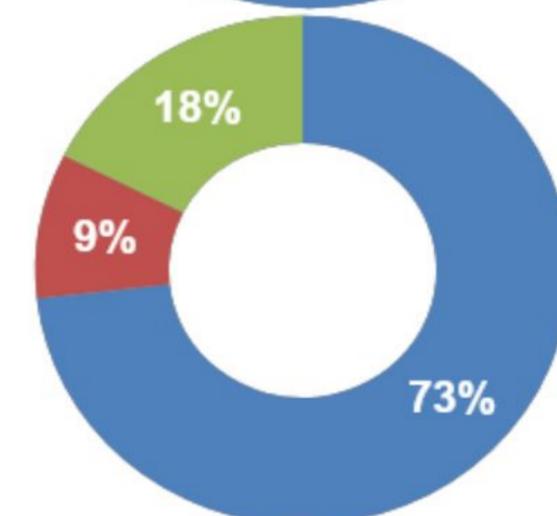
売上 セグメント比

※デジタル事業の連結は2025年度からの実施のため下記参考
(2025年4~9月分を2026年第3四半期に初めて取込み)

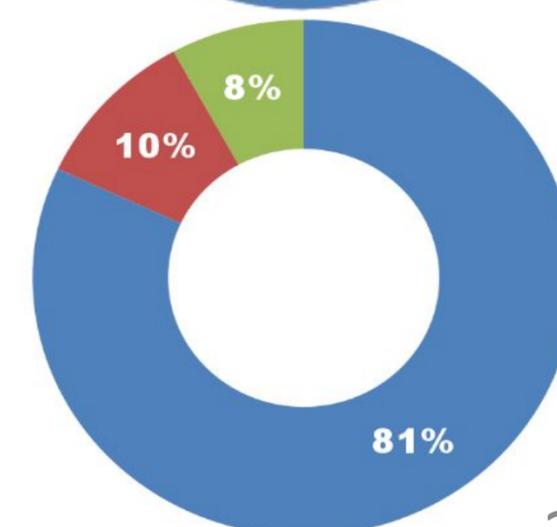
2024年2月期



2025年2月期



2026年2月期
第3四半期



- 試験機事業
- エンジニアリング事業
- デジタル事業

06

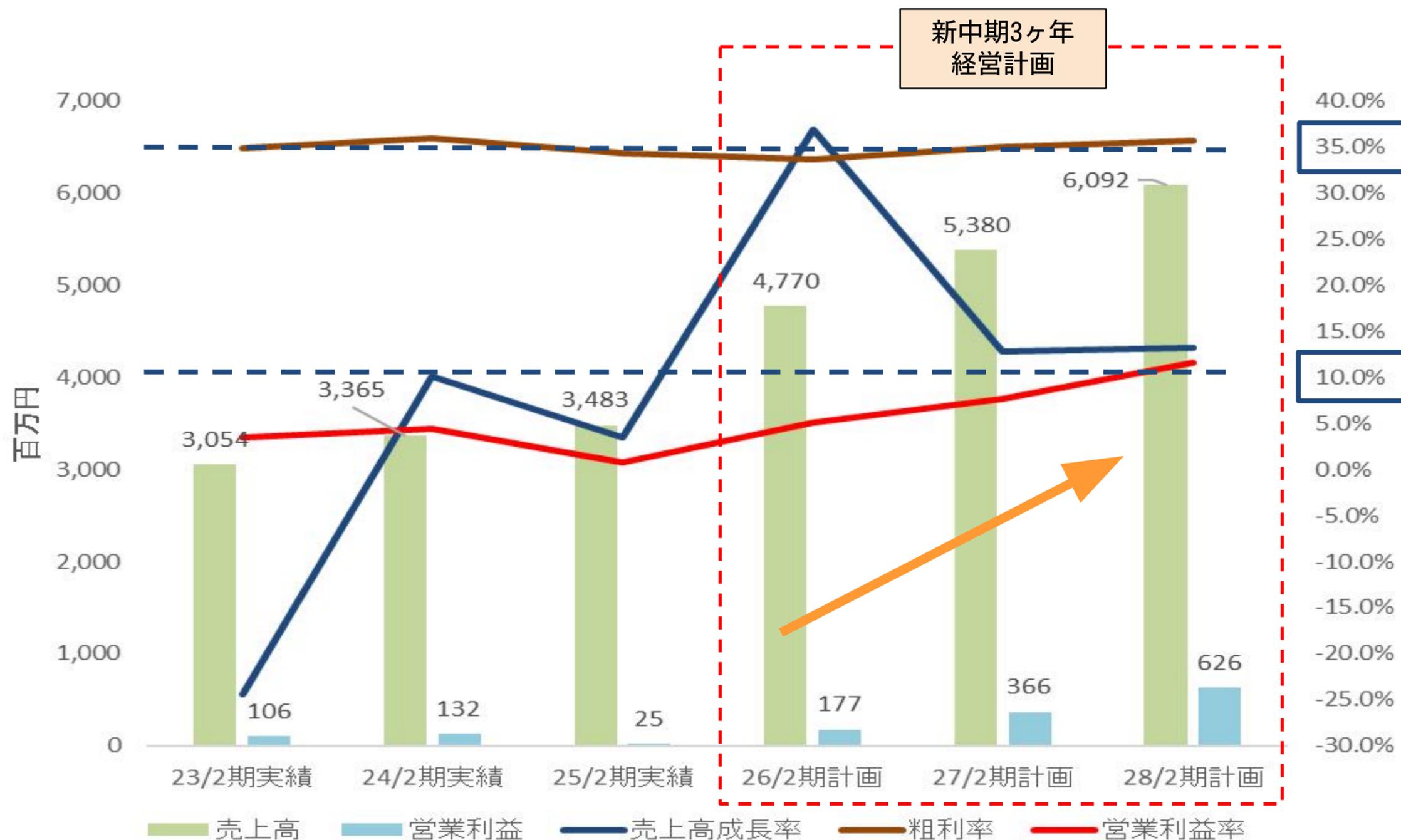
中期経営計画

中期經營計畫

	第117期	第118期	第119期	新中期3力年經營計畫						
	2023/2月期	2024/2月期	2025/2月期	2026/2月期 計畫	前年比	2027/2月期 計畫	前年比	2028/2月期 計畫	前年比	25/2月期比
売上高(百万円)	3,054	3,365	3,483	4,770	1,287	5,380	610	6,092	712	2,609
売上原価(百万円)	1,989	2,154	2,288	3,166	878	3,493	327	3,918	425	1,630
粗利益(百万円)	1,065	1,211	1,195	1,604	409	1,887	283	2,173	286	978
販管費(百万円)	958	1,078	1,170	1,408	238	1,520	112	1,546	26	376
営業利益(百万円)	106	132	25	177	152	366	189	626	260	601
粗利率(%)	34.9	36.0	34.3	33.6	▲0.7	35.1	1.5	35.7	0.6	1.4
販管费率(%)	31.4	32.0	33.6	29.5	▲4.1	28.3	▲1.2	25.4	▲2.9	▲8.2
営業利益率(%)	3.5	3.4	0.7	3.7	3.0	6.8	3.1	10.3	3.5	9.6
売上高成長率(%)	▲24.4	10.2	3.5	37.0	33.5	12.8	▲20.8	13.2	0.4	9.7

中期経営計画の概要

中長期的に目標とした経営指標全てを最終年度にクリア予定



中長期的に目標とする
経営指標

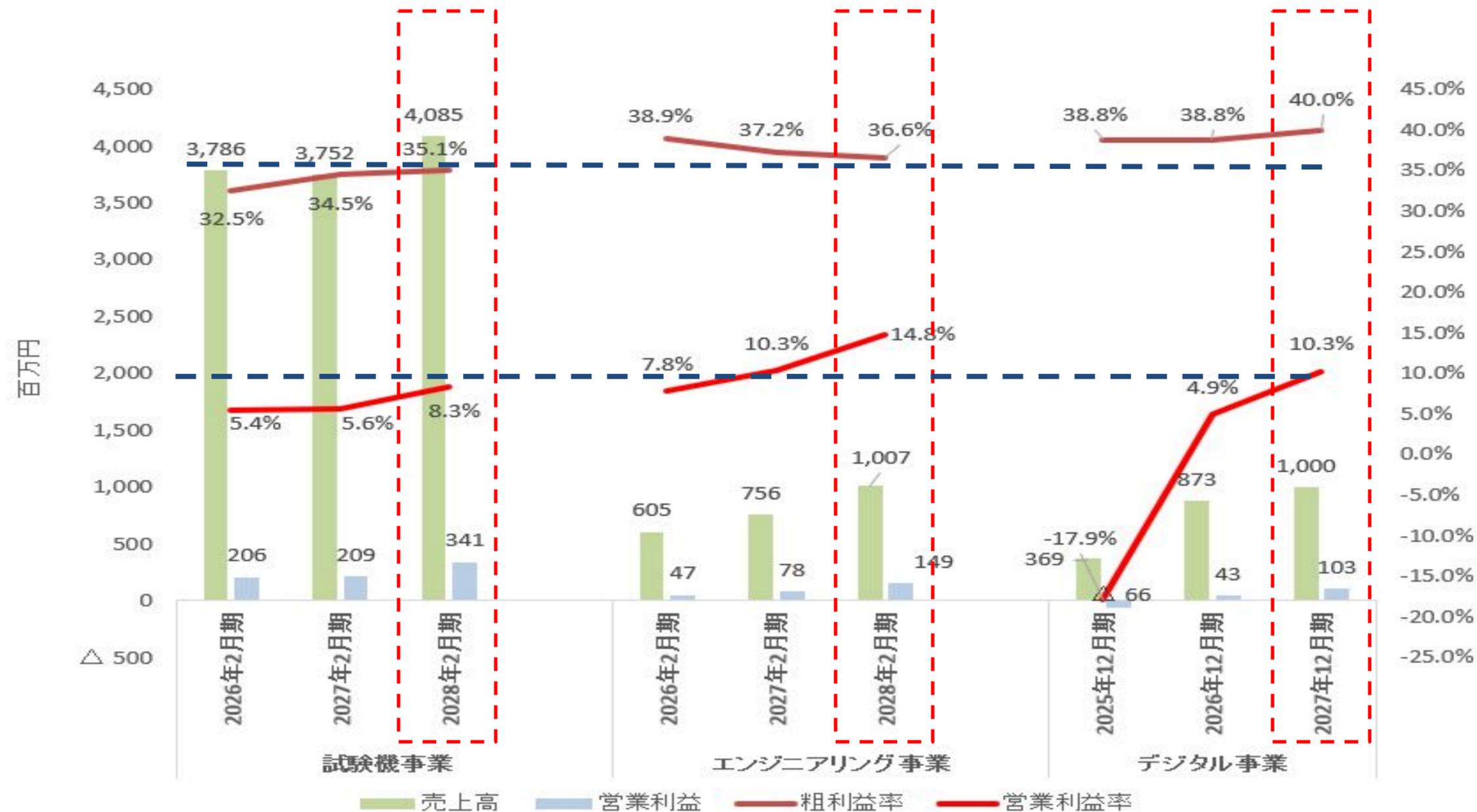
売上高成長率 : 10%以上
粗利率 : 35%以上
営業利益率 : 10%以上

2028年2月期に売上高成長率、粗利率、営業利益率、いずれも達成することを目
標とします。
※太い点線で上が35%、下が10%のラインです。

※2026年2月期からの売上高成長率は、ASTOM社買収の影響を含んでおります。

中期経営計画の概要

セグメント別損益指標



中長期的に目標とする
経営指標

粗利益率 : 35%以上
営業利益率 : 10%以上

※太い点線で上が35%、
下が10%のラインです。

新中期3ヶ年経営計画
最終年度は赤の点線です。

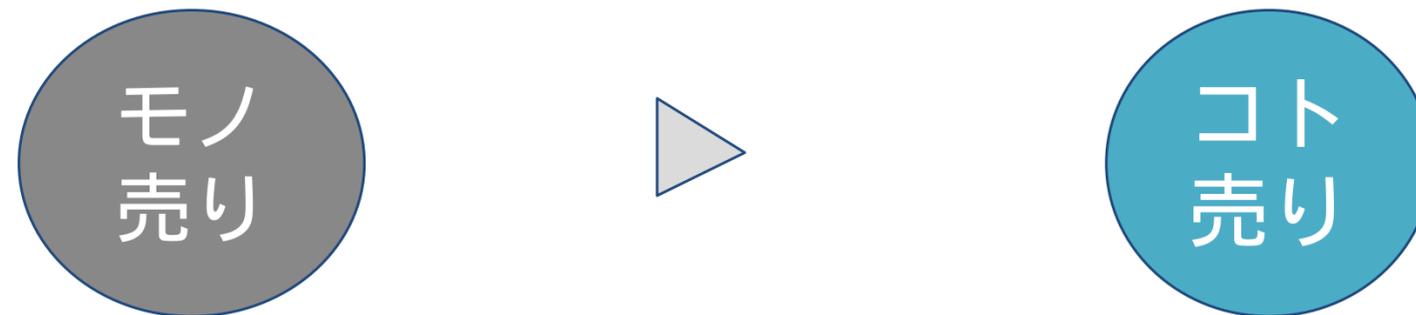
※デジタル事業は、ASTOM社の決算です。

中期経営計画の取り組み

デジタルツイン化&モノからコトへ

従来の「モノを売る」から、

「モノ」がもたらす 「コトを売る」 ことが、BtoB事業の本質であると考えています。



当社は、デジタルツイン*化を通じて「モノ」の先にある「コト」を見つめ、

お客様との関係性を「コト」で築き、

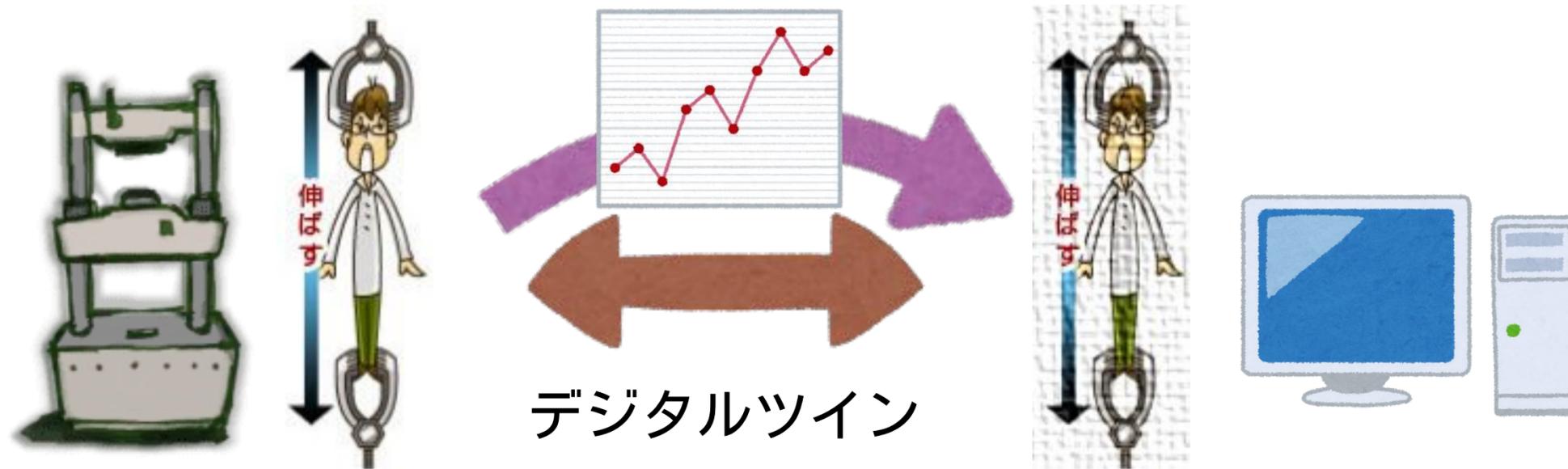
「コト」を売ることで、事業を成長させます。

※デジタルツイン…

現実世界で集めたデータを基に、コンピューター上の仮想空間に現実世界とあたかも双子のように再現する技術

デジタルツイン化イメージ

試験機事業におけるデジタルツイン化



試験機と同じ条件のシミュレーションを実行
試験結果との一体化

実機試験とデジタルツインが常にペアで存在する世界

- 実機だけでは見えないものが見える
 - 直接観測できない試験片内部の応力・ひずみ状態
 - 制御が難しい試験条件、物性等のバラつき
- デジタルツインを使った仮想試験が可能
 - 試験条件を事前検討（合格しそうな/問題が起きそうな条件を事前に探す）
 - 疲労試験など長期間試験のデジタルツインによる先回り予測



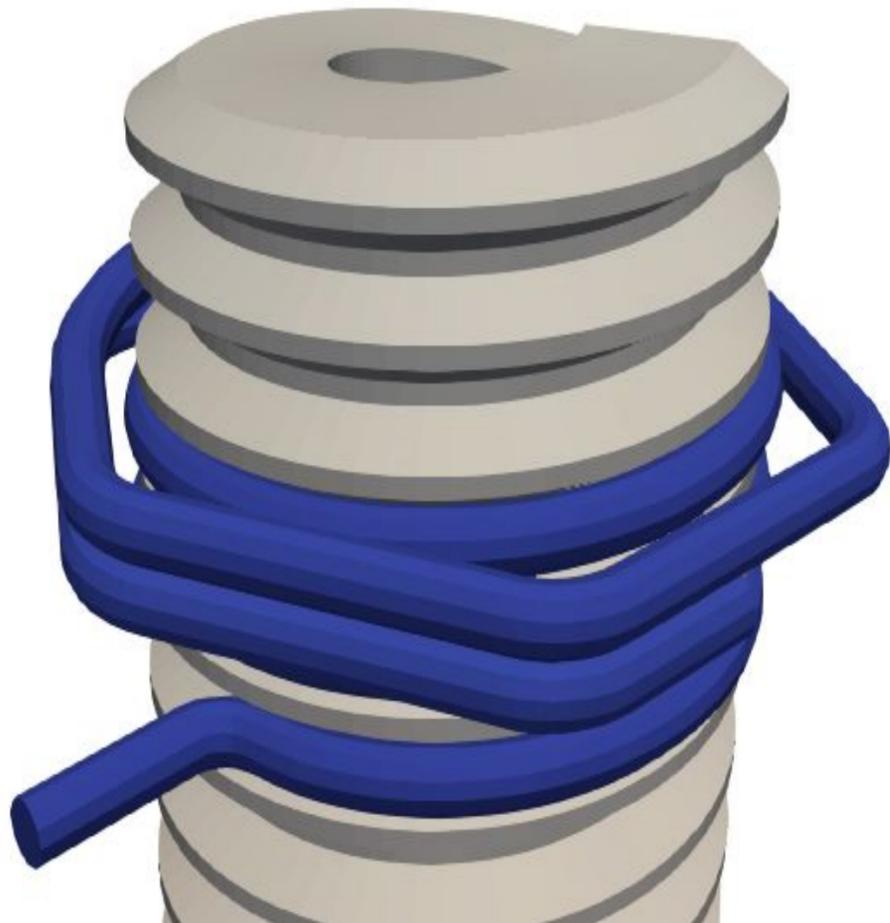
イラストは当社のキャラクター
「コーキ君」です

デジタルツイン化イメージ

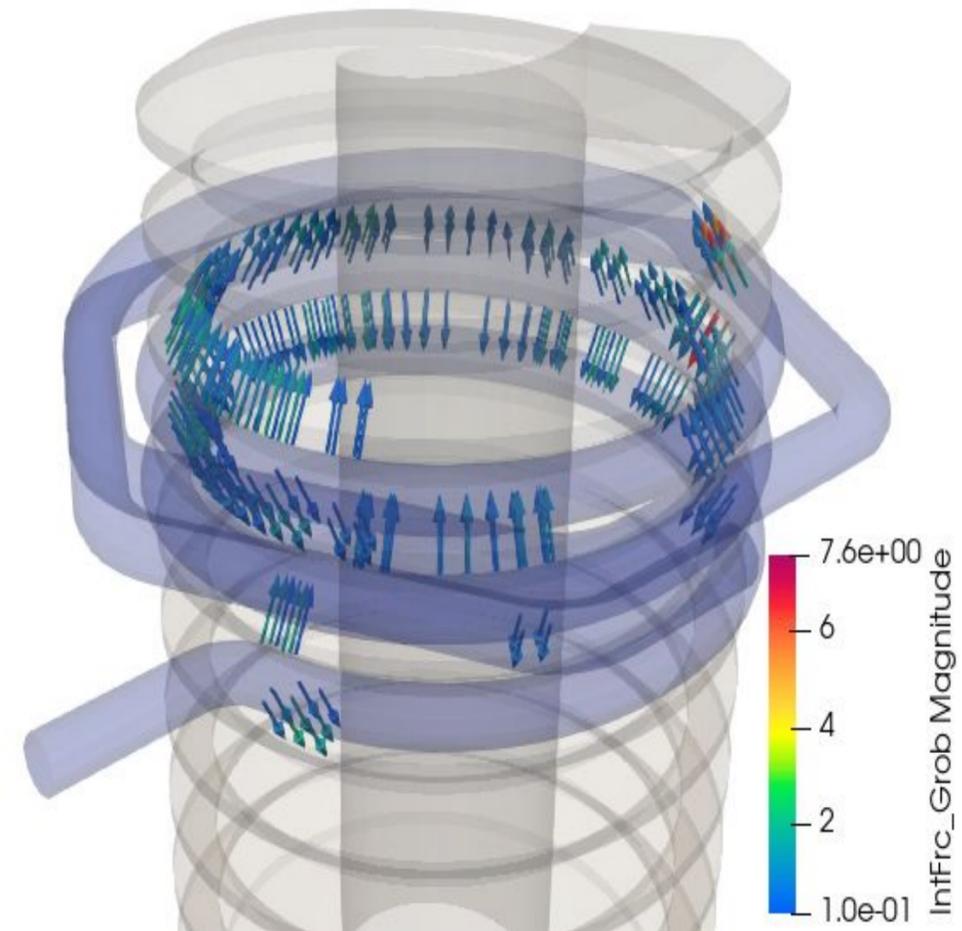
エンジニアリング事業におけるデジタルツイン化

写真や平面図ではわかりにくい内部構造を3Dデジタル化により可視化

接触力の可視化



ボルトがスプリングから受ける接触力



中期経営計画の詳細は東京衡機のIRページを是非ご覧ください。



2025年9月17日(水)
株式会社東京衡機 (東証コード 7719)

07

トピックス

トピックス

東京大学とドローン性能計測技術の共同研究を開始



・当社グループがドローン関連事業に取り組む理由

近年、物流、点検、防災の次世代空モビリティ分野においてドローンの活用が拡大する一方で、「安全性」および「信頼性」を担保するための性能評価・認証環境の整備が大きな課題となっています。

こうした背景のもと、ASTOM R&D社の有するシミュレーション・解析技術と、東京大学の学術的知見を融合させることで、ドローン性能評価技術の高度化を図ります。

・今後の展望

- ・ 関連ソフトウェアの開発。
- ・ ドローンの出荷前動作検証が採用されることを目指し、ハードウェア及びソフトウェア保守の運用。
- ・ FFT GYRO※を標準的なドローンテストベンチとして確立を目指し、国内生産およびサポート体制の構築。

※FFT GYROは、Eureka Dynamics S. A. P. I. de C. V. のドローンテストベンチ（装置）です。

トピックス

上場維持基準をクリアへ

上場維持基準（スタンダード市場）

上場内国会社は、下記に定める基準に適合した状態を継続的に維持することが求められます（有価証券上場規程第501条）。

2022年4月4日現在

項目	上場維持基準（スタンダード市場）
株主数（注1）	400人以上
流通株式（注2）	a. 流通株式数 2,000単位以上 b. 流通株式時価総額 10億円以上 c. 流通株式比率 25%以上
売買高（注3）	月平均売買高が10単位以上
純資産の額（注4）	純資産の額が正であること

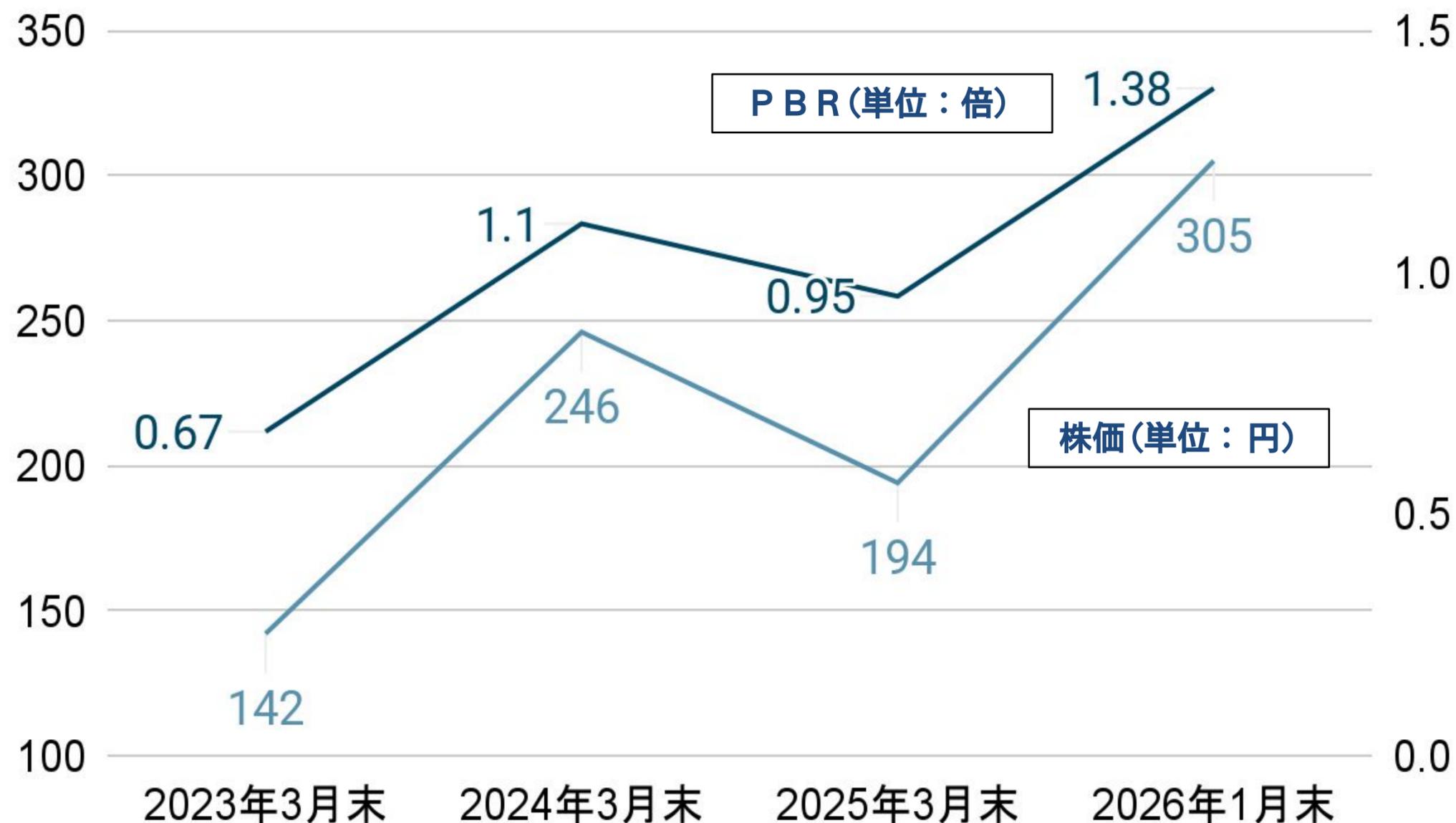
※日本取引所グループ、ホームページより抜粋。

- **株主数**
400人以上 ⇒ **3,261人**
- **流通株式**
 - a. **流通株式数 2,000単位以上** ⇒ **4,676単位**
 - b. **流通株式時価総額 10億円以上** ⇒ **14億円**
 - c. **流通株式比率 25%** ⇒ **65.5%**
- **売買高**
月平均売買高が10単位以上 ⇒ **4,118単位**
- **純資産の額**
純資産の額が正であること ⇒ **+1.7億円**

⇒直近（2026年1月14日現在）では、**クリア**
（※株主数、株式数は2025年8月末、流通株式関連、売買高は2025年12月、2026年1月の2ヶ月分で計算、純資産は第3四半期決算時点（2026年1月14日）の数値）

トピックス

株価を意識した経営へ(※配当は2029年2月期の実現を目標)



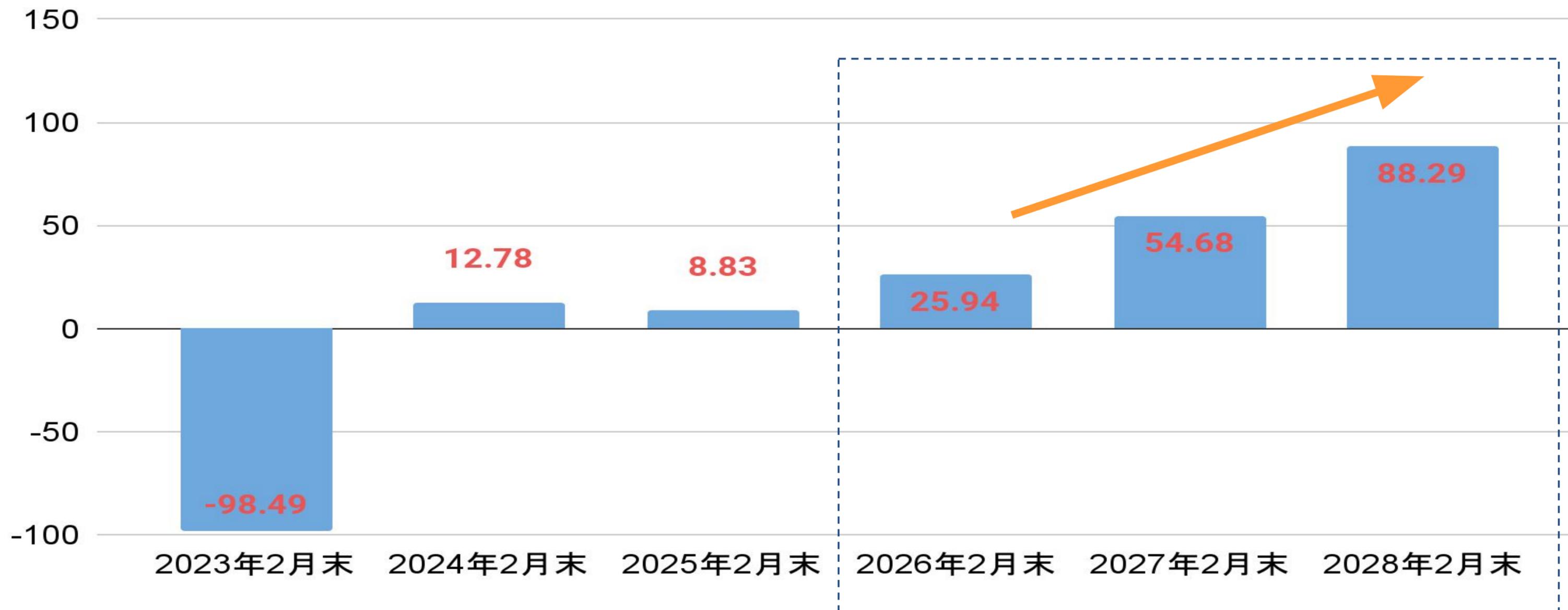
IRRと株価単純増加率

基準日	IRR	株価単純増加率
2023年3月末	-	-
2024年3月末	+73.2%	+73.2%
2025年3月末	+16.8%	+36.6%
2026年1月末 (※2.83年換算)	+31.0%	+114.8%

※株価単純増加率は2023年3月末を基準に、IRRは、各期末の株価を2023年3月末を起点として計算しています。

トピックス

EPS 向上へ (※ 1株あたり当期純利益、単位：円)



※2026年2月期以降は中期経営計画に基づく数値で計算しています。

トピックス

試験機事業の受注高は好調

決算期末	受注残高（試験機事業）	対前期比等・備考
2022年2月期末	約1,518百万	-
2023年2月期末	約2,002百万	前年同期比 +31.8%
2024年2月期末	約2,701百万	前年同期比 +34.9%
2025年2月期末	約3,576百万	前年同期比 +32.4%

試験機事業受注残高推移(百万円)



①現在、東京衡機グループの主力事業である試験機事業の受注残高は過去最高水準に達しており、安定的かつ持続的な成長の基盤が整っています。

なお、**2025年4月末時点の受注残高は4,135百万円**と既往最高を更新しています。

②当社の技術力に対する需要の強さと、継続的な案件獲得力を示す結果となっています。

③受注残高の拡大は、将来の売上・利益の安定的な確保を裏付ける重要な指標であり、東京衡機の持続的な企業価値向上を支える強固なファンダメンタルズのひとつです。

④特に、国内外における新素材や先端技術開発分野での需要増加を背景に、当社の試験機は幅広い産業で活用されており、今後も引き続き成長の加速が期待されています。

⑤実機試験とCAE解析を組み合わせたデジタルツインを提案します。実測データで解析モデルの精度を高め、仮想空間で評価・検証を進めることで、開発期間の短縮と試験回数の削減を実現し、顧客価値の向上に貢献します。さらに研究開発の上流段階から関与することで、伴走型の高付加価値案件を創出します。

08

質疑応答